

平成 2 5 年 度 茨 城 県 立 水 戸 農 業 高 等 学 校 自 己 評 価 表

目指す学校像	知・徳・体を身につけた社会に有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習・国際交流等とおしてコミュニケーション能力を磨くことができる学校。地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
[昨年度の成果] ・授業、立哨指導あるいは保護者との連携等とおした反復指導で基本的な生活習慣を身につけた生徒が増えた。 ・体験学習によって素直で豊かな心を育む生徒が増えた。 ・教師が、授業を大切にしよう心がけた。生徒の授業に取り組む姿勢が良くなっている。 ・各科、学年、進路指導部等が一体となって指導をしたことにより、進路指導の成果が上がった。 ・感染症への適切な対応ができた。 ・農林水産部等との連携事業により、就農志向者の意識が向上した。 ・いばらきものづくり教育フェアを成功裡に終了することができた。農業クラブ活動の活性化にもつながり、農業高校のPRもできた。 [本年度の課題] ・個に応じた分かりやすい授業に心がけ、授業に意欲的に取り組む態度を育成する。 ・各学年との連絡を密にして、1年次から体系的な進路指導体制の確立を図る。 ・LHR等あらゆる機会を利用して、進路情報を適切に提供する。 ・進路講話やインターンシップ等により、職業体験活動の参加者数を増やし、望ましい勤労観・職業観の育成に努める。 ・道徳教育をあらゆる教育活動とおして行い、規範意識を高め、規則を守れるようにする。 ・生徒会活動や農業クラブ活動を活発にし、魅力ある学校行事を実施する。 ・部活動紹介や見学会等を実施し部活動加入を促す。 ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・いばらきものづくり教育フェアを成功させる。 ・農業クラブ関東大会茨城大会を成功させる。	・基本的な生活習慣の確立	・挨拶の励行や身だしなみを整えるなど、基本的な生活習慣を確立させる。 ・欠席・遅刻・早退を防止し、時間を大切にするなど、規律ある生活習慣を身につけさせるとともに、小さなことを見逃さない指導を実践する。 ・道徳教育や農業教育等とおして、豊かな人間性や素直な心を育む。 ・ボランティア活動等への積極的な参加とおして、思いやりの心を育む。	B	
	・基礎学力の向上	・新学習指導要領にもとづく教育活動を円滑に展開する。 ・授業時間を大切に、授業研究を怠らず、授業の質的向上を図る。 ・学力差のある生徒に対する学習指導の在り方について、積極的に研究授業や公開授業に取り組む。 ・分かる授業の工夫とともに、自ら学習に取り組む意欲習慣をつけさせ、生徒個々の能力の伸長を図る。	B	
	・体系的な進路指導と指導体制の確立	・生徒の進路希望に沿った自己実現のために適切な支援を行い、100%の進路希望実現を目指す。	B	
	・特別活動の活性化	・運動部・文化部等の加入率の向上と活性化を図る ・環境美化活動、ボランティア活動、社会教育活動への積極的な参加を促す。 ・成達会等の自主的活動を推進する。	B	
	・健康と安全教育の充実	・健康管理、交通安全、農業機械や農薬事故等の防止など、安全教育の充実を図る。 ・危機管理、防災、不審者対応などのマニュアルの点検を行う。 ・自然災害等に対する備えを十分に行い、具体的な行動計画を作成し、訓練を行う。	B	
・農業教育の充実	・特色ある学校づくり支援事業の取組を推進することで、農業後継者の育成を図る。 ・全国農業高等学校第2次アクションプラン「エコロジカル・アグリハイスクール宣言」の基本方針と行動計画を具体化・実践し、その検証と評価を行う。 ・プロジェクト学習や各種発表会・競技会等に積極的に取り組ませることにより、農業クラブ活動の充実を図る。 ・いばらきものづくり教育フェアやインターンシップ等の活動とおし、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、校外に向けた発信を行う。 ・資格取得試験への積極的な取り組みと合格率の向上を図る。 ・農業クラブ関東大会茨城大会の成功を目指し、協力体制を充実する。	B		
・学校施設設備の充実	・東日本大震災からの復旧・復興の推進を図るとともに、教育環境の整備充実を進め、学習活動・特別活動の活発化を図る。	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務 部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取り組みの研究	平常の教育活動を取り戻す(仮設校舎から新校舎への移行まで) 授業に対する取り組み方や学習環境の整備改善にあたる。 教育課程の諸課題に関する研究を行う。情報・教材の共有化に関する研究を行う。 職員室の環境整備にあたる。	A B B A	A ・新校舎の教室環境の整備を図る。 ・新教育課程にもとづいた教育活動の定着を図る。 ・前年度実施した授業改善計画をもとにより一層質の高い授業を展開する。 ・観点別評価をもとにシラバスを作成し、評価の適正化を進める。 ・水農体験・学校公開やホームページの充実などを通して学校外へ積極的に情報を発信していく。 ・資格取得件数の増加を図る。
	基礎学力の向上	授業研究(授業参観等)を実施し、授業内容の充実を図る。 観点別評価を取り入れた評価規準の検討をし、考查内容とシラバスの充実を図る。 資格取得に向けての取り組みを強化する(全体計画・指導計画の検討)。	A A B	
	広報活動の充実	ネットワーク委員会と連携し、ホームページを充実させる。 各学科と連携して、ホームページ・キャンパスガイド・学校紹介ビデオを関連づけて作成する。 積極的に中学校訪問を実施する。	B A B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	朝の立哨指導を継続実施し、制服着用の意識付けを定着させる。 身だしなみ・言葉遣い・時間を守る等、学校生活における基本的生活習慣の確立を目指し、場に応じた適切な指導を行う。 他の迷惑にならない生活が出来るように、社会的マナーやモラルの向上を図る。 ルールや決まりを守り秩序ある生活ができるよう、特別指導を効果的に取り入れ、社会に対応出来る生徒の育成に努める。	A B B B	B ・教員側の指導の統一化を図り、共通理解を持った指導体制を作る。 ・社会のマナーやモラルの向上を図る。 ・自己肯定感の持てる生徒の育成の為の指導を考える。 ・規範意識の確立と思いやりの心を育てる。
	安全な学校生活環境の維持	貴重品の自己管理を徹底させ、盗難や紛失防止に努める。 バイク通学許可者に対する安全指導の継続と交通ルールを守った運転を励行させる。 立哨指導等とおして、登下校の安全を確保する。 薬物乱用防止教室やケータイ安全教室等の各種講話をとおして、法律や規則を守り被害に遭わない生活が出来るようにする。	B B B B	
	心の教育の推進	農業教育や道徳教育をとおしてモラルの向上と命の大切さを学ぶ。 教育相談やカウンセラーとの面談、担任との面談等をとおして、学校生活への適応と自己実現を図る。 ボランティア活動・交流活動・体験活動等への参加を促し、自らの立場を理解して他を思いやる心を育成する。	B A B	
特別活動部	部活動の活性化	部活動の加入率向上を目指す。 活動の成果を高めるためのリーダーの育成を図る。 各活動場所や部室周辺等の環境整備の充実に努める。	B B A	B ・各部の競技力の向上を図り、部活動の活性化を目指す。 ・各行事の内容の検討を行い、更に魅力ある行事となるよう努める。 ・成達会役員の主体性を高め、積極的な運営ができるよう努める。
	学校行事の充実	水農祭の内容など計画立案の再検討と、会場の環境整備を図る。 各種学校行事への積極的な参加をとおして、生徒に達成感を体験させるとともに、クラスの連帯意識を高める。	A A	
	成達会活動の充実	ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。 成達会役員による昇降口でのあいさつ運動を通して、生徒の積極的なマナーの向上を促す。	B A	
進路指導部	系統的な進路指導の充実 （多様な進路実現への対応）	3年間を見通し、ホームルームでの進路指導の充実を図る。 学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導を系統的・計画的に行う。 各種進路情報の収集と積極的活用、情報の共有を図る。 係分担を明確にし、各学年との連携を強化する。進路指導を組織的に行う。	A A B A	A ・進路指導室の活用を図る。 ・就職希望者への早期指導を行う。 ・進学希望者への学力向上の方策を検討する。 ・進路未決定者への指導を充実させる。
	進学指導の充実	推薦・AO入試・小論文対策・作文やレポートの作成指導・面接指導を充実させる。 進学対策のための課外を実施する。	A A	
	就職指導の充実	就職対応の模擬面接指導、履歴書や礼状の書き方などの添削指導を早期に充実させる。 積極的な企業開拓と継続的な訪問を実施し、就職情報の提供・共有を図る。	B A	
	勤労観・職業観の育成	インターンシップへの積極的な参加、体験型ガイダンスや進路講話を充実させる。	A	
保健厚生部	生徒の健康安全に対する管理運営	健康診断の実施とともに、保健日誌を活用して生徒の健康状態を把握する。 感染症対策およびアレルギーを持つ生徒への迅速な対応に万全を期す。	A A	B ・身体測定は、反省を生かし学年ごとに体育館で実施する。 ・アレルギー講習を実施し、知識を高める。 ・新校舎では、降下訓練が必要になる。
	校舎内外の学習環境の安全と美化	清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。	C	
	防火防災対策の徹底	室内ファンヒーターの安全な利用の指導。 避難訓練、消火訓練の計画と実施。	B B	
図書部	本校の教育目標に応じた学校図書館 作りの研究	農業教育の専門学校として関係書類の整備に努める。 本校の文化センターとしての役割を果たすために、図書・視聴覚資料の整備に努める。 職員研修の成果として、紀要を発行する。	B A A	B ・長い年月を経て、水農図書館も手狭になってきた。農業関係の専門性の高い学術書を常時農場棟に移す措置が必要だと考えられる。 ・課題図書として大量購入した本をHRや学年に積極的に貸し出し易い環境を整えていきたい。 ・図書委員会活動を活発化させたい。 ・視聴覚室の空調の整備を引き続き要求していく。
	学校図書館を利用した教育の充実	教科指導とのつながりをもった教育資料の充実に努め、授業・自主学習の支援をする。 校内読書感想文コンクール、図書委員研修会等の開催や広報誌の発行により、各種情報の収集と発信に努める。 図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	B A B	
	視聴覚機器の充実と視聴覚を利用し	授業で利用できるソフトと機器の充実を図り、広く授業・教育活動の場として提供する。	A	
	学校図書館の施設・設備の充実	視聴覚室の空調設備を整備する。	B	
	司書作業の研修と蔵書の整理	利用しなくなった書籍・VHSビデオの除籍作業をする。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
渉外部	P T A総会等の成功	P T A総会等について確実に保護者に連絡するために、案内文書を各家庭に郵送し、参加率を向上させる。 P T A行事と運営委員会を同日に設定し、効率よい開催をめざす。	B A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総会の参加率の向上を目指す。また支部会の意義を理解していただき、参加率を向上させる。 ・会員数が極端に少ない支部が複数出てきたので、統廃合を検討する。 ・各種行事や広報活動は現状を維持する。 ・県の情報発信システムの利用の拡大を目指す。
	P T A支部活動の持続	支部の会員と学校の支部担当者との連携を深めて、支部の活動への会員の参加者数を増やす。運営委員会を活用して支部の活動の活性化を図る	B		
	校外生徒指導の実施	校門・後台駅での立哨指導を多くの会員で実施していく。	A		
	主催行事の充実	水農祭・公開講座・視察研修などの工夫を凝らして充実させ成功に導く。	A		
	広報活動の充実	広報誌・HPでの行事の案内や報告など、わかりやすくP T A活動を広報していく。	A		
農場部	資格取得の合格率の向上	合格率向上のため、計画的な課外学習に取り組み、指導体制を充実させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学科間の連携を通じた直売所の運営を進める。 ・担い手育成教育の一環として、校外実習や研修を充実させる。 ・地域に開かれた農場づくりを進める。 ・各学科の専門性を生かした資格取得を進める。 ・農業分野の専門性を身につける職員研修を充実させる。 ・環境整備と施設・設備を更新する。
	農業クラブ活動の活性化	プロジェクト活動を推進し、生徒の自主的・主体的学習の深化を図る。 農業クラブの各種発表や技術競技に意欲的に取り組ませる。	B B		
	「エコロジカル・アグリハイスクール宣言に基づいた行動」	各学科の専門に関する知識・技術の学習をとおして、基礎・基本の確実な定着を図る。	A		
	①基本的な農業技術能力を持つ人材の育成	農業担い手育成事業を充実させるとともに、校外実習体験活動を推進する。 安全で質の高い農産物の栽培に取り組む。 農業機械・実験・実習器具の安全な操作や適切な農薬の使用など、学習における安全の徹底を図る。			
	②食の安全・安心教育の推進	校内環境の美化に努めるとともに、環境に負荷をかけない農産物の栽培に取り組む。	A		
	③環境教育の推進	幼稚園児や小学校児童に対し、農業体験活動の指導・援助の学習を展開する。	A		
	④開かれた学校を目指すとともに農業教育の普及活動の展開	第6次産業を見据えた「農産物直売所」の設置と運営に取り組む。	B		
⑤奉仕体験活動の積極的導入	地域連携を取り入れた学習(研究)活動を推進する。 地域連携活動の一環として草花の苗等の配布活動を継続する。	B A			
事務部	予算の計画的な執行	電子調達となり、手続きが煩雑かつ複雑化しただけでなく、見積期間を置かなければならないなどの制約が生じているので、急な調達要求に対応できないので、周知を図り計画的な執行を行う。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新本館への引っ越し後の円滑な教育活動を実現するため、不足している教材教具及び消耗品等を速やかに整備する必要がある。 ・農機具類が老朽化して保守分の供給に不安が生じているので、予算を要求して逐次更新する必要がある。
	施設の長寿命化	老朽施設の修繕修理を予算の範囲内で行い、施設の有効利用の長期化(長寿命化)を図る。	B		
	事務処理の効率化	総務事務システム、電子調達等の制度化により事務の煩雑化・複雑化が著しく、業務が長時間化しているため、事務処理の効率化を図り残業時間の縮小に努める。	B		
	学校徴収金等の滞納の解消	保護者の納入意識の高揚を図るとともに、学年・担任との連携のもと、学校徴収金等の滞納者の減少を図る。	B		
国際教育委員会	農業を通じた相互理解 異文化交流	タイ、ビエンチャイ高校との姉妹校締結。 タイへのホームステイを募集。今回は姉妹校締結を目指していることを理解。交流の歴史を学び日本との文化の違いを再認識。	A B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・タイの生徒が来日・来校するので、より本校での農業活動・体験交流を深められるようなプログラムを作成する。 ・より多くの参加者が集まるようなニュージャーナル研修の計画・立案を行う。
	双方の国の良さを見つめ直す	タイホームステイの事前指導を通じて日本との違いを理解し、双方の良さを探求する。	A		
ネットワーク委員会	教育情報ネットワークの環境の整備	県教育情報ネットワークの更新及び、新校舎完成に伴う校内ネットワークのシステム整備及び、ネットワーク使用基準の作成。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度作成した情報の利用規程をもとにネットワークの整備をする。 ・県のネットワーク運営方針の動向を確認しながらHPの整備をする。
	ホームページの更新	時代に即した情報を発信できるようホームページの全面的にリニューアルする。	C		
寮務委員会	基本的な生活習慣の確立	規律ある共同生活をとおして、挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神を身につけさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・長期生の長期生としての自覚(水農の大黒柱)をどの様に持たせるか。 ・寮の有効活用を図る。 ・農業科・園芸科・畜産科の女子の増加にどう対処すべきか。
	寮運営の改善と活性化を目指す。	食堂の新築に合わせ、寮運営のあり方を検討し、次年度に向け準備をする。また、寮の有効活用を検討し、できることから実践する。	B		
	家庭・地域との連携	寮生活ハンドブック(仮称)を作成し、家庭に配付し寮の生活・規則について周知する。 研修会などを通して保護者との連携を図る。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
1 学 年	基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣を身につけさせるために、朝の読書タイムの実施や清掃活動の徹底など、日頃の小さな取り組みを積み重ねていく。また、3年次に120周年式典を迎えることを自覚させ、規範意識をもった行動ができるよう学年集会やLHR等と授業を有機的に結びつけて指導していく。	A	A <ul style="list-style-type: none"> 朝の読書タイムや清掃活動の徹底などにより、規範意識や愛校心を育むことができた。次年度に向けて、これらの活動をより発展させ、基本的生活習慣に加え、学習習慣の確立を目指す。 ガイダンスや進路課外などにより進学希望者の意識高揚を図ることができた。今後は就職希望者に対し、職業観を身に付けさせる取り組みを充実させたい。 特別活動や国際交流事業、農業クラブ活動に積極的に参加する生徒が多く、これらの生徒を中心に、活気ある学年団を形成することができた。次年度以降は、これらに参加した生徒の横の結びつきを強化し、学年全体に波及できるような連携を図りたい。
	進路指導の充実	昨今の厳しい進路状況に対し、1年次より職業観を育成するため、進路指導部等と連携し、課外授業やガイダンス等を実施する。また近年基礎学力が重要視されているため、資格取得等への積極的な取り組みをとおして、学習習慣を身につけさせる。	B	
	活力ある生徒の育成	運動部・文化部等への加入や今年度本県で開催される関東大会や全国大会首都圏大会などの農業クラブ活動への積極的な参加を促すことで、活力ある生徒の育成を目指す。	A	
2 学 年	基本的生活習慣の確立	服装・頭髪などの身だしなみを整えさせるとともに、無断の欠席・遅刻・早退を防止する保護者と連絡を密にし、早めに対応することで問題行動の未然防止に努める。	B	B <ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の定着を図る。 生徒一人一人の進路を実現させる。
	基礎学力の向上	授業を真剣に取り組む姿勢を身につけさせ、学習意欲を向上させる。資格取得に積極的に挑戦させ、充実した高校生活を送らせる。	B	
	進路意識の高揚	体験学習に積極的に参加させ、目的を持った高校生活を送らせる。進路について啓発を図り、自らの進路を明確にさせる。	B	
卒 学 年	進路の実現	適性に合った進路が実現できるように、目標を立て、その実現に向けた対策を具体化し実行する。	A	B <ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席の減少に努める。 社会人として言葉遣いができるようにさせる。 授業に取り組む意欲・態度を教材・指導方法を工夫し向上させる。 農業高校生として更に生命を尊重するように教育する。
	基本的生活習慣の確立	社会人になることを意識して、望ましい態度や言葉遣いができるようにする。	B	
	規範意識の高揚	最高学年としての自覚を持ち、自主的、自立的な生活態度を確立し、本校の規範となることを目指す。	B	
農 業 科	農業教育の充実	魅力ある農業教育を展開し、農業や自然環境を重んじる態度を育成する。農作物の育成をとおして、思いやりや環境への関心を高める。専門教育学習（プロジェクト学習等）を推進する。	A A A	B <ul style="list-style-type: none"> 授業や実習等できちんとした服装を身につけさせ、特に実習においては十分に安全に留意させる。 職員同士で情報を共有し、生徒指導や学習指導、行事の運営や圃場管理などあらゆる場面において協力体制をつくりあげる。
	基本的生活習慣の確立	挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神を涵養する。授業に臨む心構えや授業態度を向上させる。	B B	
	学習環境の安全と美化	農場実習棟や更衣室等の清掃区分を明確化し、教員による指導・監督の徹底に努める。実験実習室内外の美化およびごみの分別の徹底と軽量化に取り組む。	B B	
畜 産 科	授業態度の向上	授業・実験・実習の開始時の整列を励行する。返事・服装の指導を行い、きちんとした態度で学習させる。実験実習の準備から展開・後片付けまで、生徒の実験実習における自主的参加を図る。	B B	B <ul style="list-style-type: none"> 施設の充実を図る。（畜産実験実習棟の建て替え、女性更衣室と糞尿処理施設の新設） 伝染病予防対策と地域社会への牧場開放の両立を図る。 資格取得の合格率を上げる。 畜産科の地域への広報活動を行う。 畜産部の活動を活発にする。 課題研究の内容を充実させる。
	体験教育の推進	主体的、創造的に家畜や動物に触れ、生命を感じる教育を実践する。（分娩管理実習・解剖・解体実習の活用・畜体の測定・動物の運動・食品の加工）	A	
	わかりやすい授業の展開	課題研究において、一人一人の目標に沿った課題の設定や内容の充実を図る。専門科目の特色を出し、資格取得の目標を持たせるなど教育内容の充実を図る。	B B	
	畜産場の地域社会への開放 わかりやすい授業の展開	牧場を地域社会に積極的に開放し、教育活動の活性化を図る。専門科目学習教室授業（座学）と実験実習を有機的に結びつけ、意欲的に学習する態度の育成を図る。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
園芸科	わかりやすい授業の展開	専門科目学習教室授業(座学)と実験実習を有機的に結びつけ、意欲的に学習する態度の育成を図る。	B	B <ul style="list-style-type: none"> 今年度より「草花」が1年次から履修となり、実習と座学とを有機的に結びつけた授業展開により、園芸科の目標を生徒に明確に示すことができた。 栽培技術に関しては、おおむね目標に到達したが、部門によっては不十分な所もあったので、次年度以降も検討していきたい。 農業クラブ「意見発表」、「うまいもん甲子園」で関東大会に出場することができた。このような活動を継続し、全国大会で上位入賞を狙えるよう、指導体制を強化していく。
	園芸作物の栽培技術の習得	プロジェクト学習の取り組みと、育苗から収穫までの栽培管理実習の強化を図る。特に今年度から始まる直売所の運営に積極的に参加させ、年間計画から販売までをとおして、6次産業化する農業に実情に合わせた指導をしていく。	B	
	プロジェクト活動・課題研究発表会の充実	課題研究・農業クラブ活動で、一人一人がテーマを設定し、自ら問題を解決していく力を育成する。特に地域との連携を深められる活動を強化していく。課題研究発表会で、意欲的に発表できるようプレゼンテーション能力の育成ときめ細かな指導を行う。	B	
	新しい教育課程への準備	今年度入学生から実施される新しい教育課程に基づき、しっかりとした授業が展開できるよう学科で話し合いをし、スムーズに移行できるよう準備していく。	B	
農業土木科	理解に繋がる授業の展開	各学年において、段階的な学習活動を確立し、基礎・基本を踏まえた授業を展開する。授業の目標や到達点を具体的かつ明確にし、理解できる授業の実施と授業内容の充実に努める。	B	B <ul style="list-style-type: none"> 地域社会において社会貢献ができる人材を育成する。 農業土木関連の資格取得を推進し、生徒のキャリア育成を促す。 建設業協会等、関連団体と連携した進路指導を推進し生徒のキャリア育成を促す。 社会貢献の観点から課題研究の内容を精選し、キャリア育成に繋げる。
	理論と実技の一体化	理論と実技演習を連動させた授業を展開することで、知識と技術の定着を図る。	B	
	プロジェクト学習の推進	社会貢献および地域貢献を目標としたプロジェクト学習や課題研究の展開など、生徒が積極的、主体的に学ぶことができる学習環境を整える。	A	
	社会貢献・地域貢献活動の推進	生徒が学ぶフィールドを学校内から校外に広げることで生徒の学習意欲を高め、キャリア形成およびシティズンシップを高める学習機会を整える。	B	
生活科学科	「つくって食べる」という食農教育の推進	自産自消、旬産旬消、地産地消という考えを基本に、有機農法で作物をつくり、自給の体験をとおして生きるということの本質を理解する。	B	B <ul style="list-style-type: none"> 入学志願者数を増加させる。 教育内容を充実させる。
	自立した生き方、本来あるべき生き方の探求	1年 「作物を栽培して、それを食材として調理・加工して食べることに興味を持ち、食べることの本質を理解する。農業と環境について理解する。 2年 栽培管理ができるようになることをとおして、自信と誇りをもつ。 3年 自ら課題を設定し解決することで、自立した生き方につなげる。	B B B	
食品化学科	組織的・計画的な学科運営	週1回の学科会議を開催する。学科内行事・実習記録を作成する。引継資料を作成する。	C	B <ul style="list-style-type: none"> 女子生徒への就職活動支援が必要である。 資格取得指導方法について検討をすすめる。(合格者数の増大)
	クリーンで安全な環境づくり	清掃を徹底する。備品・薬品を整理する。授業・実習中の安全教育を徹底する。実験着・実習服の適切な着用を徹底する。	B A	
	進路指導の充実	進学希望の生徒に対する計画的・継続的な支援のあり方を検討する。	B	
農業経済科	基本的な生活習慣の確立	登校時・授業における服装指導を徹底する。	A	B <ul style="list-style-type: none"> 生徒の身だしなみやルールについてマニュアル化して共通理解をはかる。 習熟度別にコースを分けて学習指導の深化をはかる。
	基本的な生活習慣の確立	ホームルームや授業を通して身だしなみやマナーについて常に意識させる。	A	
	学習意欲の向上	資格取得など生徒一人ひとりの目標を定めることにより、意欲的に学習に取り組ませる。	B	
	施設設備の充実	最新の情報機器及び、ソフトウェアを整備すると共に指導技能を高める。	B	
定時制農業科	確かな学力の定着	教材を精選し、基礎学力を身につけさせる授業展開を行う。基本的な学習態度の育成を図り、成就感を味わえるような授業展開をする。個の能力に応じた指導により、基礎学力の向上に努める。	B B A	B <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣と学習態度を身につけさせるため SHR や LHR を充実させ、授業時間の確保に努める。 教室にいる時間を長くし、生徒との密接なコミュニケーションを図る。 本校舎移転にともない、更に教室環境の整備に務め、生徒が学習しやすい環境を作る。
	生徒理解の充実	生徒・保護者との面談機会を確保する。保護者や出身中学校と密接に連絡を取り生徒理解に努める。	A A	
	進路指導の充実	ホームルームや道徳の時間を中心に、自己の将来を見つめさせ、その展望を考えさせる。アルバイト等の社会体験をとおして、早期から進路意識を啓蒙する。進路意識を啓蒙する取り組みを学年毎に企画・立案し、進路指導の充実を図る。ハローワークとの連携を密にし、進路実現に努める。	A B B B	
	自信を持てる体験学習等の充実	生徒が自信を持てる何かを見つける取組をする。インターンシップ等、生徒が自分に自信を持つことができる体験活動を充実させる。	B B	
	基本的な生活習慣の定着	常に元気なあいさつが交わせる明るい生活環境をつくる。人の話を聴ける態度を身につけさせる。一人一人に応じた適切な教育や支援を実践する。	A A B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語科	基礎学力の向上	生徒の実態を踏まえ授業の展開を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 授業参観を実施し、学習指導の手だてや工夫を協議し指導力の向上に努める。 漢字力をつけるため授業や定期考査に継続的に取り入れる。また漢字学習への意識向上や定着のため漢検を活用する。	B A	B	<ul style="list-style-type: none"> 各科(クラス)の特性を活かしながら授業展開を工夫し基本的な国語力を定着させる。 漢字の授業への取り組み方を工夫したり、補講を継続したりして漢検への受験意欲や合格率を上げる。 進路対策としての小論文指導は、外部模試を活用したり進路と連携を図ったりし個別指導を充実させる。
	表現力の向上(進路対策)	目的や場に応じて自分の考えを文章にまとめる力を育成する。 外部模試なども活用しながら生徒の進路に応じた個別指導を充実させる。	B A		
地歴・公民科	日本国及び世界の国々が形成される歴史的過程と地域的特色の違い、及び現代の社会についての理解と知識の深化を図る。	教科書のみならず、新聞や視聴覚教材など多種多様な教材を用いながら、授業内容を分かりやすく伝える工夫をする。また適宜問いかけを入れながら、理解度を確認していく。基本的な内容を精選し、それぞれの科目の特徴を生かした指導内容を構成する。	A A	A	<ul style="list-style-type: none"> 社会情勢の変化を踏まえて、今後も多様な教材を用意して、生徒が興味を持って取り組める授業を目指す。 基本的な授業の環境整備は継続する。卒業後、自分なりの考えを持ち、行動がとれるように指導する。
	現代の国際社会に主体的に生きる民主的・平和的な国家・社会の一市民として必要な自覚と資質を涵養する。	授業に臨む姿勢を整えるため、携帯電話やゲーム機等の扱いについても注意を払う。内容としては、時事的な現在進行形で起きている社会事象も適宜扱う。 ノート提出・小テストの実施等を定期的実践し、生徒が現代社会に必要な知識・教養を身につけられるよう指導する。	A A		
数学科	基礎学力の向上	基礎・基本の定着を図るため、生徒の実態に沿った授業を展開する。 基礎学力が定着していない生徒へ個別指導を実施し、基礎の定着を図る。 進学希望の生徒に対して、希望する進路によって個別に課外を実施し対応する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態にそった授業を行うことができ、基礎学力が定着していない生徒への個別指導や進学者向けの課外も行うことができた。 積極的な呼びかけで、学期に一回の検定を実施できた。授業内容の検討や、指導法について情報交換はできていたが、科全体で話し合う機会は少なかった。
	数学検定資格取得の奨励	学期に1回を目安に実施し、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	A		
	教員の指導力の向上	積極的な授業公開や、授業内容や指導法について情報交換を行い、自己研鑽に努める。	B		
理科	基礎学力の向上	各科の学習内容と関連した授業内容を精選し、本校生にあった教材を作成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上をさらに目指す。 進路に応じた指導の継続。
	興味・関心の向上	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と生物・化学の関連性を理解させる。	B		
	進路指導への積極的な関わり	進学者を対象にした生物・化学分野の課外の実施と個別指導を充実させる。	A		
英語科	基礎学力の向上	教科書だけでなく、辞書や副教材等を活用し、基礎的なところから学習できる環境を与え、きめ細やかな指導を行う。 ひきつづき学習の用意の徹底とモチベーションの向上を図る。	A A	B	<ul style="list-style-type: none"> 英語の基本的な語彙や文法の定着を図る。 授業中に教員および生徒が英語を発する割合を増やすように努める。 A L Tができるだけ多くのクラスで授業できるようにする。 英検受験を促す。
	モチベーションの向上	A L Tを活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。 魅力ある授業展開を通し、英語の授業に取り組む意欲を高める。	B B		
	資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の課外・面接を積極的に行う。 並行して英検受験者や大学進学者への少人数指導などにも力を入れる。英検受験対策用の問題集などを用意する。	B B		
保健体育科	協調性や協力性の育成	生涯にわたり継続して運動に親しむ力の育成を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題解決の工夫ができるようにする。
		集団としてのきまりを守って、活動できる体育学習を展開する。	B		
		目標の解決を目指して仲間と協力し、運動に取り組ませる。	B		
家庭科	家庭生活の課題を主体的に解決する能力の涵養	実験・実習等を通して基本・基礎的知識や技術の習得を図るとともに、心のふれあいを持ち、豊かな人間性と生きる力を育む。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 用具・器具の後片付けを徹底させる。 静かに話を聞く態度を育成する。 個別指導では、心のふれあいを持ちながら、粘り強く学習に取り組む態度を養う。
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度の育成	体験学習・視聴覚教材の利用・新聞記事の活用などにより生徒の興味・関心を高め、家庭生活をより身近な問題としてとらえさせる。	B		